2011年3月期 第2Q決算説明会

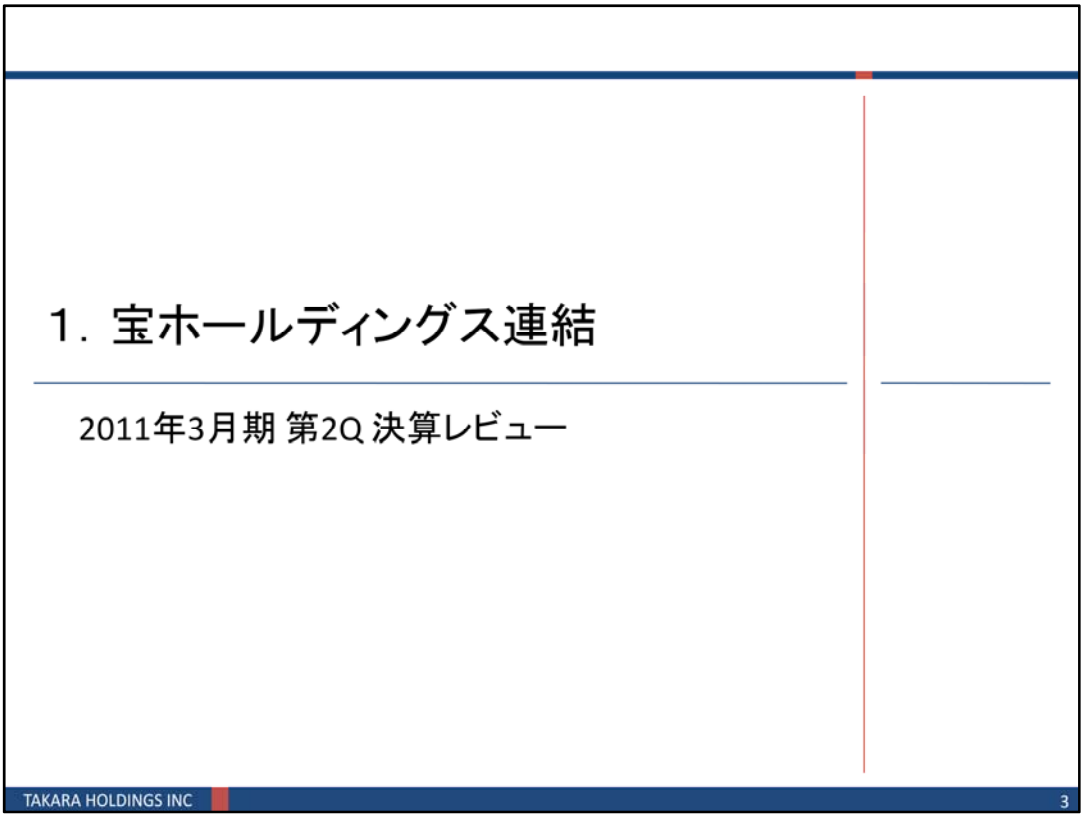
2010年11月9日
宝ホールディングス株式会社

・宝ホールディングスの大宮です。
・本日はお忙しいところ、当社グループの2011年3月期 第2四半期 決算説明会にお集まりいただき、誠にありがとうございます。

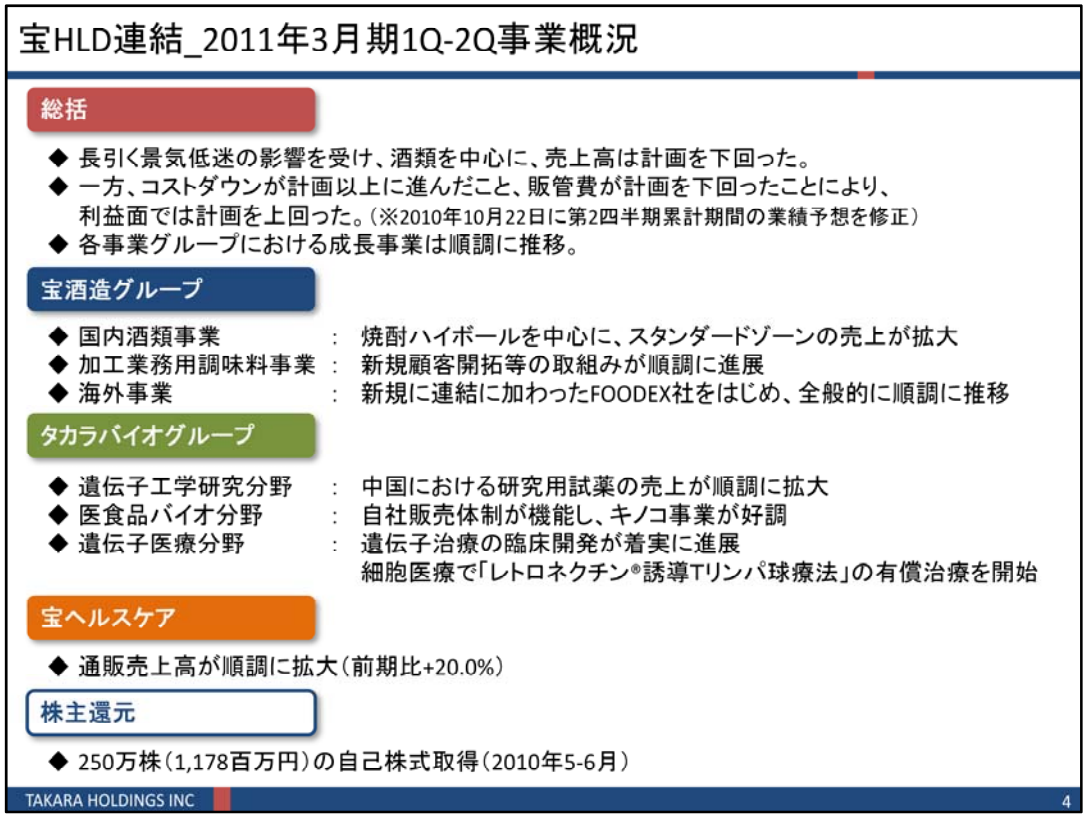
本日の内容

1. 宝ホールディングス連結
   - 2011年3月期 第2Q 決算レビュー
2. 宝酒造グループ
   - 2011年3月期 第2Q 決算レビュー
   - 2011年3月期 活動内容、通期業績予想
3. 宝ヘルスケア社概況
4. 宝ホールディングス連結
   - 2011年3月期 通期業績予想

・本日はご覧の順番で説明します。



・宝ホールディングス連結の2011年3月期 第2四半期までの事業概況ならびに決算について説明します。



・第2四半期までの事業概況を振り返ります。

・長引く景気低迷の影響を受け、酒類事業を中心に売上高は計画を下回りましたが、計画以上のコストダウンと販管費の削減によって、利益面では計画を上回り、先日、第2四半期累計期間の業績予想の修正を発表しました。
・また、宝酒造グループの加工業務用調味料事業と海外事業、タカラバイオグループの遺伝子医療、宝ヘルスケア社の健康食品事業などの成長事業は順調に進展しています。

・事業グループ別に振り返りますと、宝酒造グループでは、国内酒類事業において、焼酎ハイボールを中心に、スタンダードゾーンの売上が拡大しました。
・加工業務用調味料事業では、新規顧客開拓等の取組みが順調に進展しました。
・海外事業では、新規に連結に加わったフーデックス社をはじめ、全般的に順調に推移しました。

・タカラバイオグループでは、遺伝子工学研究分野において、中国での研究用試薬の売上が順調に拡大しました。
・医食品バイオ分野では、キノコの自社販売体制が機能するなど、キノコ事業が順調に拡大しています。
・遺伝子医療分野では、TCR遺伝子治療の臨床研究において第1例目の治療を開始するなど、遺伝子治療の臨床開発が着実に進展しています。また、細胞医療では、「レトロネクチン誘導Tリンパ球療法」の有償治療を開始しました。

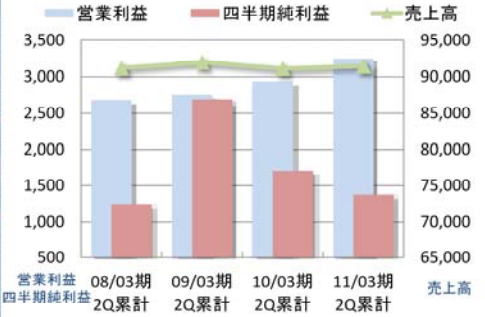
・宝ヘルスケア社では、通販売上高が前期比20%の増収となり、順調に拡大しています。

・一方で、安定した配当に加えて250万株の自己株式取得を実施し、株主還元にも努めてまいりました。

宝HLD連結_P/L概要（2011年3月期 第2Q累計）

（単位：百万円）	11/03期 2Q累計実績	前期比 増減	前期比 率(%)	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)
宝酒造G	80,754	601	0.8	△ 545	△ 0.7
タカラバイオG	8,443	△ 247	△ 2.9	△ 146	△ 1.7
宝ヘルスケア	1,516	△ 28	△ 1.9	16	1.1
その他	759	22	3.1	△ 51	△ 6.3
売上高	91,472	347	0.4	△ 727	△ 0.8
売上原価	56,068	△ 137	△ 0.2	△ 831	△ 1.5
売上総利益	35,404	484	1.4	104	0.3
販管費	32,155	173	0.5	△ 844	△ 2.6
宝酒造G	2,784	246	9.7	484	21.1
タカラバイオG	194	203	-	458	-
宝ヘルスケア	△ 115	50	-	34	-
その他	385	△ 189	△ 32.9	△ 28	△ 6.9
営業利益	3,248	311	10.6	948	41.3
営業外収益	443	△ 101	△ 18.6	43	11.0
営業外費用	457	102	28.8	△ 42	△ 8.5
経常利益	3,234	107	3.5	1,034	47.0
特別利益	458	448	4,461.5	△ 41	△ 8.3
特別損失	650	537	473.5	150	30.1
税引前四半期純利益	3,042	19	0.6	842	38.3
法人税等	1,674	383	29.7	174	11.6
少株前四半期純利益	1,368	△ 364	△ 21.0	668	95.4
少数株主利益	△ 10	△ 36	-	89	-
四半期純利益	1,378	△ 327	△ 19.2	578	72.4

●業績推移〈第2Q累計〉 （単位：百万円）



●主な営業外・特別損益〈第2Q累計〉 （単位：百万円）

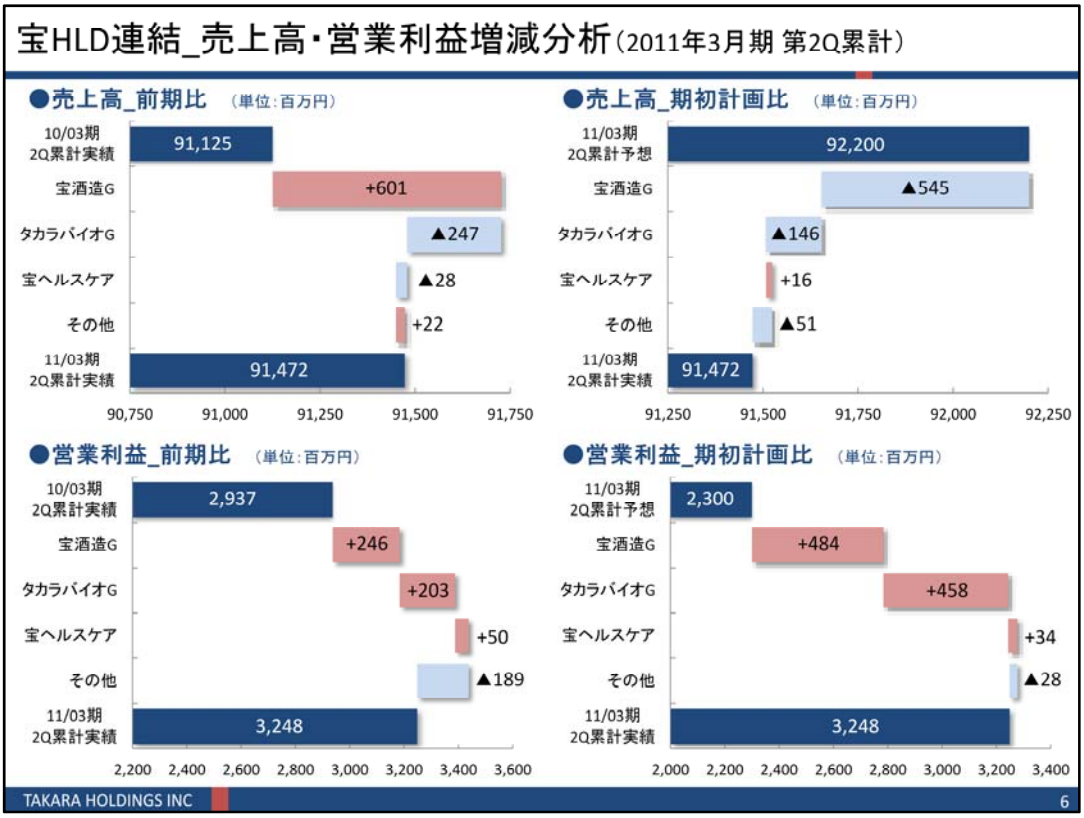
営業外収益 （前期：為替差益 94）
営業外費用 当期：為替差損 5
当期：社債発行費用 76
特別利益 当期：投資有価証券売却益 413
特別損失 当期：資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額 424

TAKARA HOLDINGS INC 5

・第2四半期累計期間の決算の概要です。

・前期比では、売上高が347百万円増収の91,472百万円、営業利益が311百万円増益の3,248百万円となりました。
・一方、四半期純利益は法人税等の増加により減益となりました。

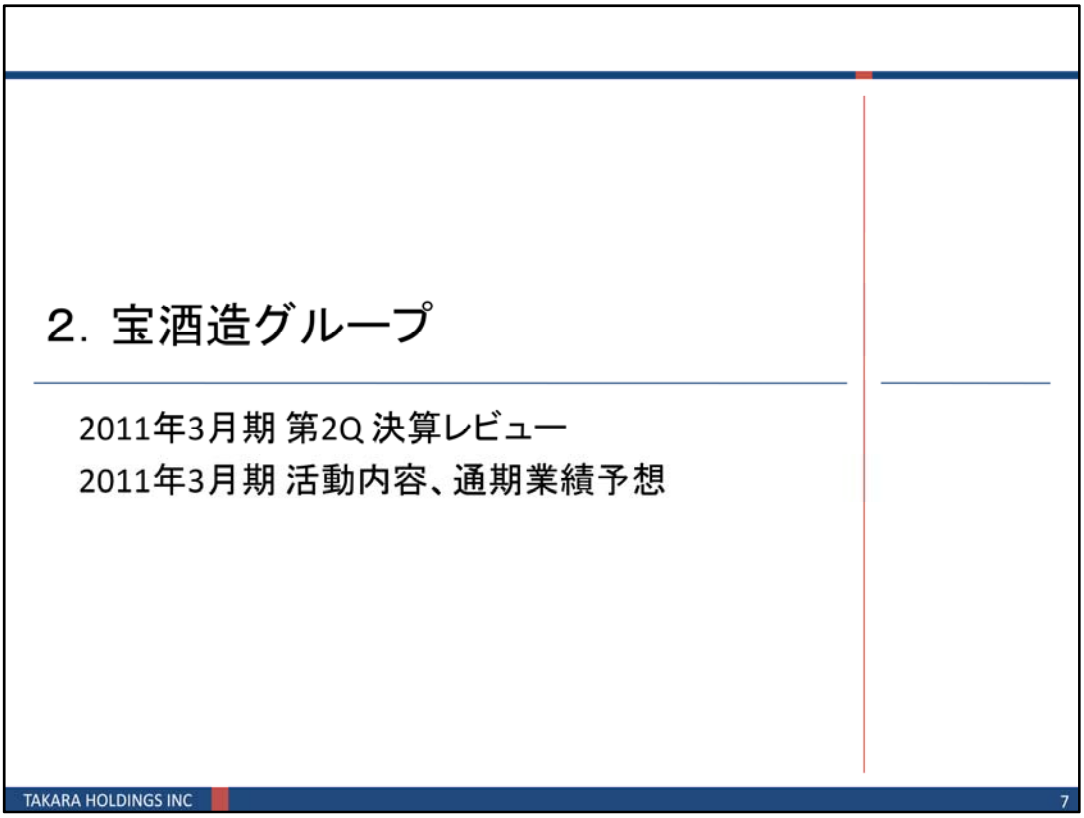
・期初計画比では、売上高が727百万円、計画を下回りましたが、営業利益、経常利益、四半期純利益の全てにおいて期初計画を大きく上回りました。



・グループ別の売上高と営業利益の増減分析です。

・前期比では、売上高は、タカラバイオグループで理化学機器の売上が減少し、減収となりましたが、フーデックス社を新規に連結に加えた宝酒造グループで大幅に増収となり、全体でも増収となりました。
・営業利益は、宝酒造グループ、タカラバイオグループ、宝ヘルスケア社のいずれにおいても増益となりました。

・期初計画比では、売上高は、宝酒造グループ、タカラバイオグループともに計画を下回りましたが、営業利益は、宝酒造グループで484百万円、タカラバイオグループで458百万円と、いずれも計画を上回り、全体では948百万円、計画を上回りました。



・宝酒造グループの第2四半期累計期間の決算および活動内容と、通期の業績予想について説明します。

宝酒造G_P/L概要（2011年3月期第2Q累計）

（単位：百万円）	11/03期 2Q累計実績	前期比 増減	前期比 率(%)	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)
焼酎	37,450	△ 602	△ 1.6	△ 649	△ 1.7
清酒	7,354	△ 234	△ 3.1	△ 245	△ 3.2
ソフトアルコール飲料	11,727	340	3.0	△ 372	△ 3.1
その他酒類	4,757	△ 26	△ 0.5	157	3.4
本みりん	7,084	9	0.1	△ 15	△ 0.2
その他調味料	3,332	266	8.7	32	1.0
原料用アルコール等	2,841	△ 29	△ 1.0	41	1.5
その他	6,204	875	16.4	504	8.8
売上高	80,754	601	0.8	△ 545	△ 0.7
売上原価	50,771	39	0.1	△ 528	△ 1.0
売上総利益	29,982	561	1.9	△ 17	△ 0.1
運送費、保管料	2,995	△ 12	△ 0.4	△ 104	△ 3.4
広告宣伝費	1,652	△ 79	△ 4.6	△ 47	△ 2.8
販売促進費等	14,409	330	2.4	△ 190	△ 1.3
研究開発費	187	4	2.7	△ 12	△ 6.4
管理費、その他	7,953	71	0.9	△ 146	△ 1.8
販管費	27,198	315	1.2	△ 501	△ 1.8
営業利益	2,784	246	9.7	484	21.1

●売上高推移（第2Q累計）（単位：百万円）

●営業利益・営業利益率推移（第2Q累計）

＜営業利益率＞

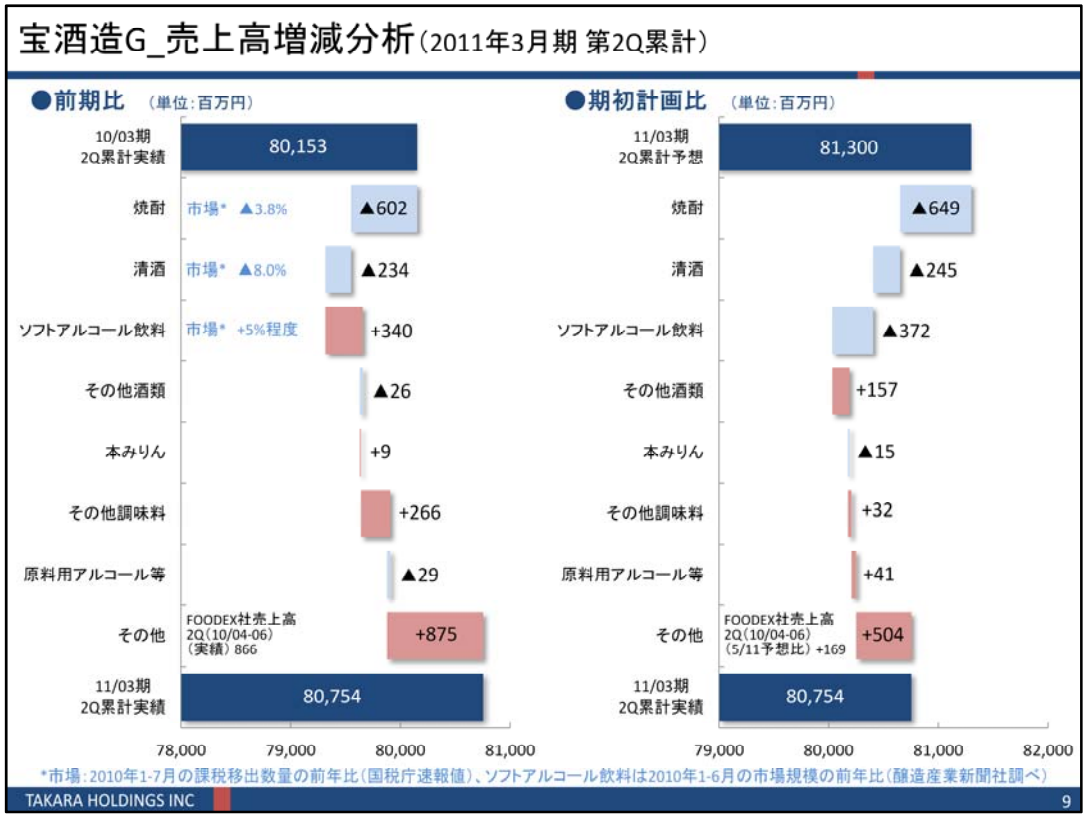
11/03期 2Q累計実績	前期差	期初計画差
3.45%	+0.28p	+0.62p

TAKARA HOLDINGS INC 8

・宝酒造グループの損益の概要です。

・前期比では、売上高は601百万円増収の80,754百万円、営業利益は246百万円増益の2,784百万円となりました。

・期初計画比では、売上高は計画を下回ったものの、計画以上のコストダウンなどによって売上総利益は計画並みとなり、さらに販管費を削減したことによって営業利益は484百万円、計画を上回りました。

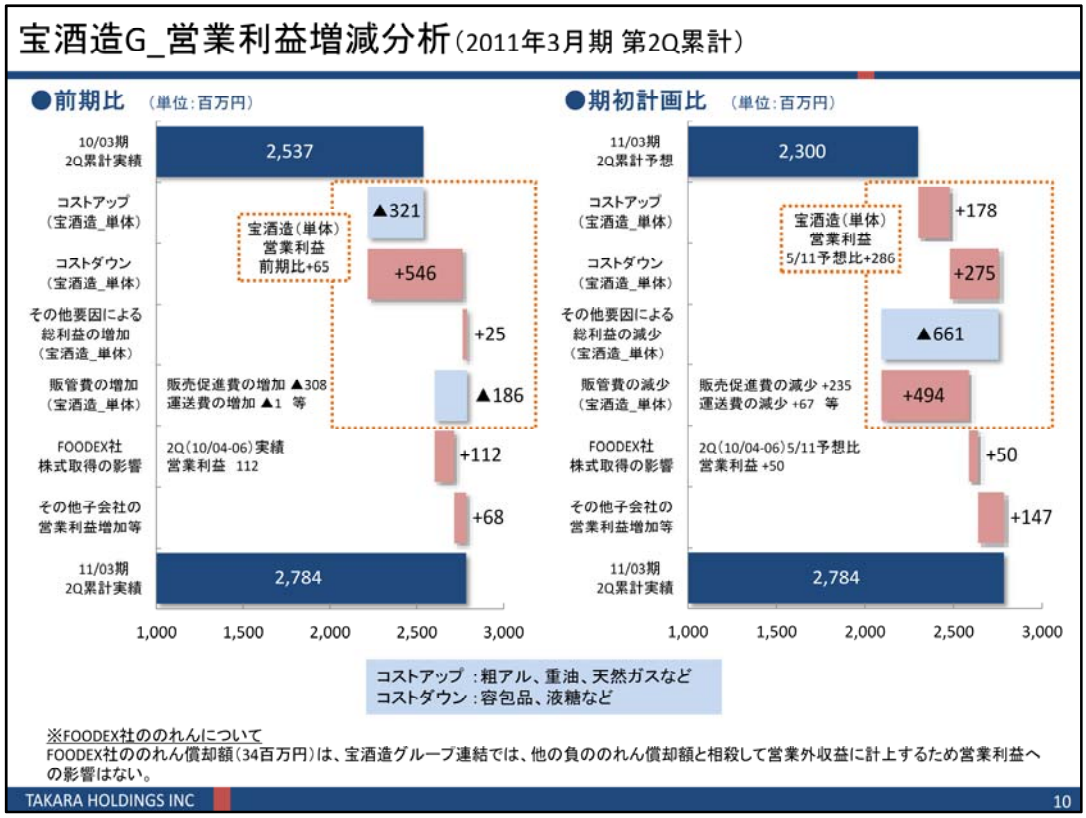


・売上高の増減分析です。

・前期比では、焼酎のうち、甲類焼酎は増収となりましたが、乙類焼酎および果実酒用の焼酎が減収となり、焼酎全体では602百万円の減収となりました。
・一方、焼酎ハイボールの好調を背景に、ソフトアルコール飲料で340百万円の増収となったほか、料理清酒を含む、その他調味料で266百万円の増収となりました。
・その他の部分では、フーデックス社の第2四半期3ヵ月間の売上高が866百万円となり、増収を牽引しました。

・期初計画比では、前期比と同様に、甲類焼酎で計画を上回りましたが、乙類焼酎などで計画を下回り、焼酎全体では649百万円、計画を下回りました。
・ソフトアルコール飲料は、前期比では増収となっていますが、期初計画は下回る結果となりました。
・一方、その他の部分では、フーデックス社の売上高が、期初計画を169百万円上回りました。

・総じて、国内は、景気低迷の影響から非常に厳しい市場環境となりましたが、海外事業では、順調に売上を拡大することができました。



・営業利益の増減分析です。

・前期比では、コストアップが321百万円、コストダウンが546百万円となりました。
・販管費は、販売促進費の増加などがあり、186百万円増加しましたが、宝酒造単体の営業利益は前期比65百万円の増益となりました。
・一方、子会社ではフーデックス社の第2四半期3月間の営業利益が112百万円となったほか、その他の子会社でも営業利益が増加し、宝酒造グループ全体では、前期比246百万円の増益となりました。

・期初計画比では、コストアップの抑制とコストダウンの合計で、計画を454百万円上回るコストダウンとなり、宝酒造単体の営業利益は286百万円、計画を上回りました。
・子会社ではフーデックス社の営業利益が計画を50百万円上回ったほか、その他の子会社でも計画を上回り、宝酒造グループ全体では484百万円、計画を上回りました。

・各事業ごとの活動内容について説明します。

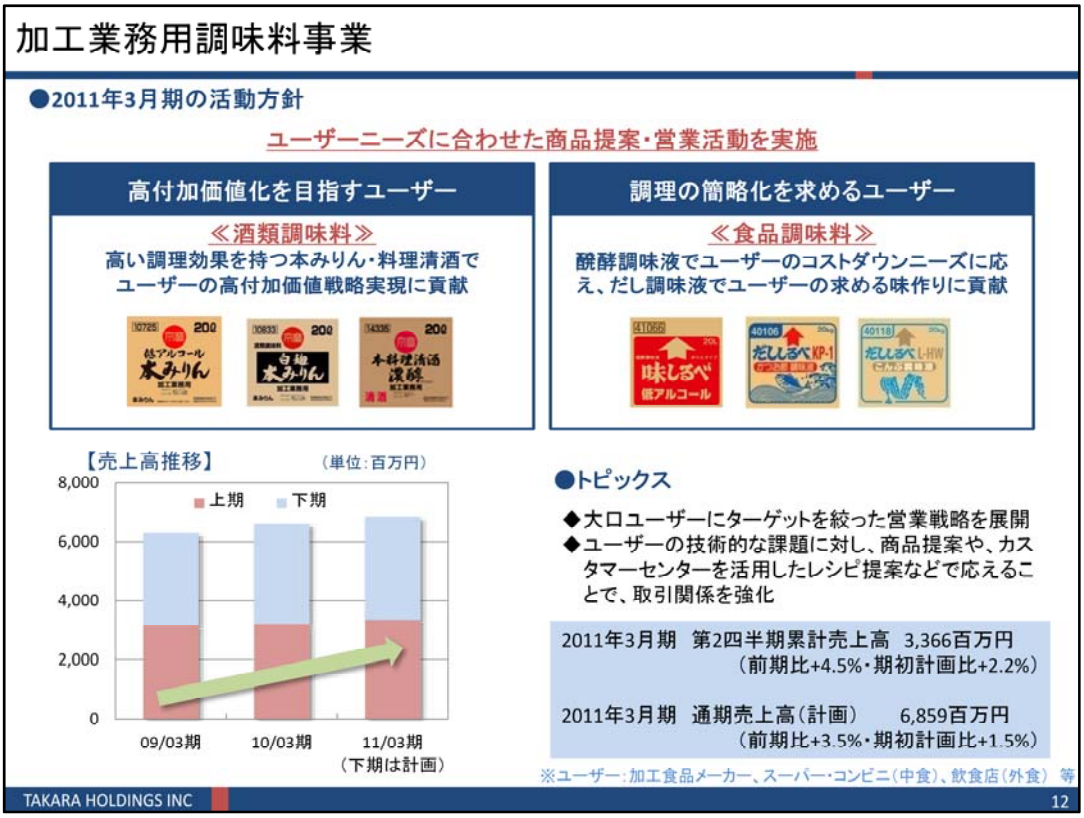
・国内酒類事業では、将来の景気回復局面を見据えた戦略と、足元の節約・低価格志向に対応する戦略の両方の戦略をとることで、消費の二極化に対応しています。

・上期を振り返りますと、こだわりゾーンの商品については、飲食店の取扱い間口拡大が順調に進んでいますが、今年は、不況や猛暑の影響で業務用市場自体が振るいませんでした。

・スタンダードゾーンでは、極上＜宝焼酎＞や、焼酎ハイボールが消費者ニーズを捉えて順調に売上を伸ばしています。特に焼酎ハイボールは、前期比71.8%増と大幅に売上を伸ばしています。

・下期も、こだわりゾーンの商品は、中長期的な視点で育成を継続し、スタンダードゾーンの商品では、足元のニーズを捉え、量の確保を目指します。

・さらに、コストダウンおよび利益管理を継続し、しっかりと利益を確保していきます。



・加工業務用調味料事業では、ユーザーニーズに合わせた商品提案・営業活動を実施しています。

・加工業務用調味料のユーザーは、高付加価値化を目指すユーザーと、調理の簡略化を求めるユーザーに二極化しており、それぞれのニーズに合わせた商品提案・営業活動を行っています。

・こうした活動が実を結び、新規ユーザーの開拓や、大口ユーザーにおける取扱い拡大が順調に進み、売上を拡大しています。

・海外事業において、宝酒造グループでは、清酒やみりんなどの「和酒」を中心に、世界の日本食市場へチャレンジすることをテーマに事業拡大を目指しています。

・また、一方で、バーボンウイスキーやスコッチウイスキーといった洋酒事業では、安定的な利益の創出を目指しています。

・世界の日本食市場へのチャレンジというテーマについて説明しますと、米国では、清酒・みりんなどを現地で製造・販売しており、日系の流通ルートだけではなく、米国系の食品スーパーやリカーストアなどでの清酒の売上拡大に努めています。

・同じく、現地での製造・販売を行っている中国では、北京や上海等の主要都市を中心に清酒の売上拡大に努めるとともに、加工食品メーカー向けに、みりんの売上拡大を目指しています。

・また、欧州では、日本食材の輸入卸事業を通じて、日本食文化の浸透・拡大を図るとともに、清酒・みりんなどの売上拡大を目指しています。

海外事業（FOODEX）

●P/L概要

（単位：百万円）	11/03期 2Q累計実績	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)	11/03期 通期計画	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)
売上高	866	169	24.3	2,554	158	6.6
営業利益	112	50	82.5	328	52	19.2

（単位：千ユーロ）	11/03期 2Q累計実績	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)	11/03期 通期計画	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)
売上高	7,405	1,825	32.7	22,216	3,042	15.9
営業利益	963	469	94.9	2,858	651	29.5

11/03期2Q累計　：2010年4-6月（3ヵ月分連結）
P/L換算レート　1€=117.03円（4-6月平均レート）
11/03期通期　：2010年4-12月（9ヵ月分連結）
P/L換算レート　1€=115.00円（4-12月平均予想レート）

●トピックス

◆2010年4月　FOODEX S.A.S.の株式の80%を取得
◆2010年7月　FOODEX SUD S.A.R.L.（南フランス）本格稼働
◆フランス、スイス、イタリア各国で売上を拡大

TAKARA HOLDINGS INC　14

・フーデックス社の概況について説明します。

・宝酒造グループでは、本年4月にフーデックス社の株式の80%を取得し、欧州における日本食材の輸入卸事業に参入しました。

・フーデックス社は、フランスを中心に、スイス、イタリアなどの周辺諸国へも事業を拡大しています。

・7月には南フランスの拠点も本格稼働し、各地域で順調に売上を拡大しています。

・フーデックス社の第2四半期から宝酒造グループに連結されていますが、その第2四半期の売上高は7,405千ユーロ、営業利益は963千ユーロと、いずれも計画を大きく上回りました。

・通期でも期初計画を上回り、売上高で22,216千ユーロ、営業利益で2,858千ユーロを見込んでいます。

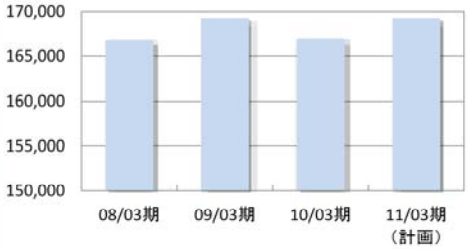
宝酒造G_2011年3月期 通期 修正計画

（単位：百万円）	11/03期 修正計画	前期比 増減	前期比 率(%)	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)
焼酎	74,800	△ 1,414	△ 1.9	△ 1,600	△ 2.1
清酒	20,700	△ 523	△ 2.5	△ 400	△ 1.9
ソフトアルコール飲料	22,700	1,414	6.6	―	-
その他酒類	9,500	△ 234	△ 2.4	△ 200	△ 2.1
本みりん	15,000	△ 27	△ 0.2	△ 100	△ 0.7
その他調味料	7,100	544	8.3	100	1.4
原料用アルコール等	6,400	175	2.8	―	-
その他	13,100	2,395	22.4	200	1.6
売上高	169,300	2,330	1.4	△ 2,000	△ 1.2
売上原価	105,500	1,453	1.4	△ 1,300	△ 1.2
売上総利益	63,800	876	1.4	△ 700	△ 1.1
運送費、保管料	6,400	106	1.7	△ 200	△ 3.0
広告宣伝費	3,400	△ 306	△ 8.3	△ 300	△ 8.1
販売促進費等	30,300	845	2.9	200	0.7
研究開発費	500	128	34.4	―	-
管理費、その他	15,900	△ 67	△ 0.4	△ 400	△ 2.5
販管費	56,500	705	1.3	△ 700	△ 1.2
営業利益	7,300	170	2.4	―	-

＜営業利益率＞

11/03期 修正計画	前期差	期初計画差
4.31%	+0.04p	+0.05p

●売上高推移〈通期〉 （単位：百万円）



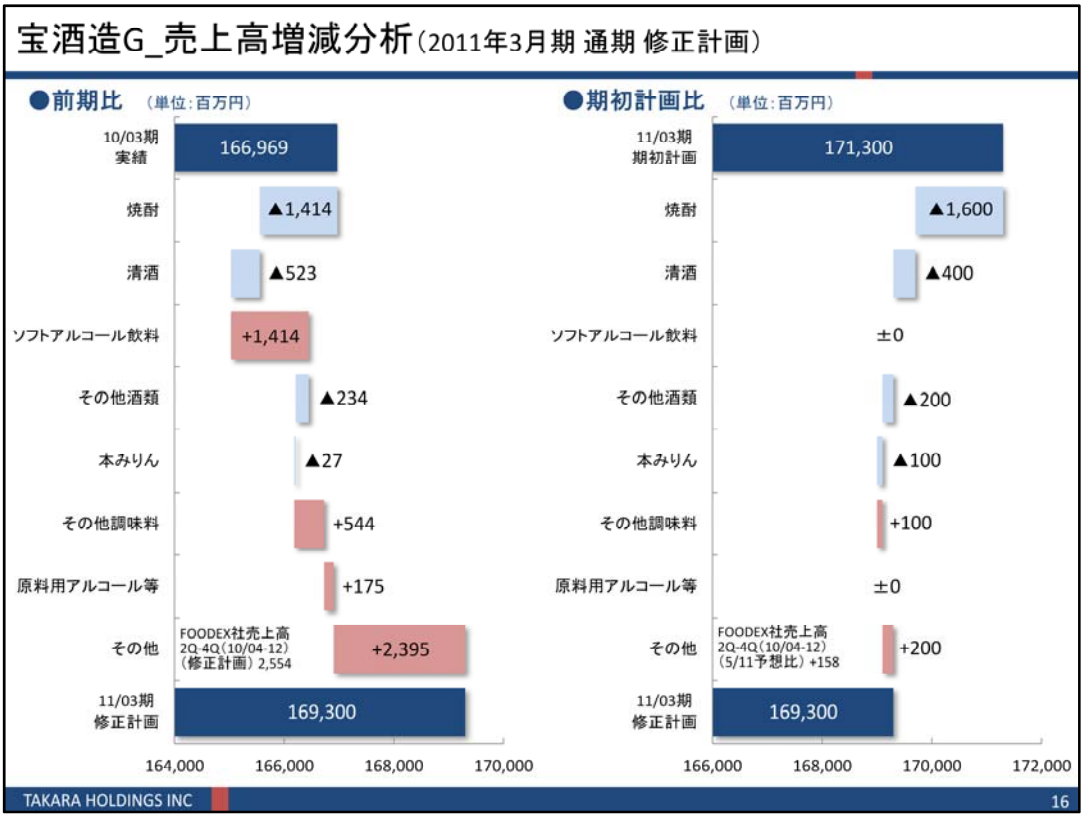
●営業利益・営業利益率推移〈通期〉

TAKARA HOLDINGS INC 15

・このたび見直した通期の修正計画です。

・第2四半期までの傾向を考慮し、売上高は期初計画を2,000百万円下回るものの、前期比2,330百万円増収の169,300百万円に見直しました。

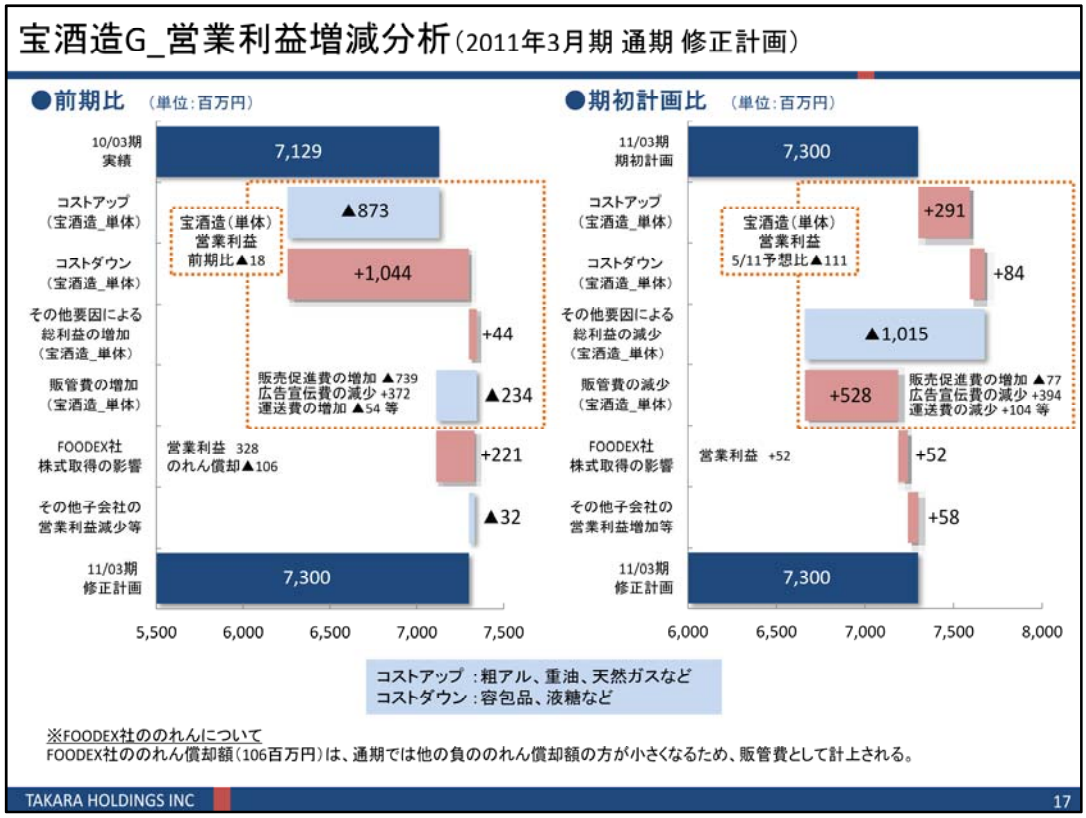
・販管費では、広告宣伝費や管理費を中心に期初計画から700百万円削減し、営業利益は期初計画通りの7,300百万円を見込んでいます。



・売上高の増減分析です。

・前期比では、焼酎で1,414百万円、清酒で523百万円などの減収となる見込みですが、ソフトアルコール飲料で1,414百万円、その他調味料で544百万円の増収を見込んでいます。
・また、フーデックス社の売上高が加わる、その他の事業で増収となり、全体では前期比2,330百万円の増収となる見込みです。

・期初計画比では、焼酎で1,600百万円、清酒で400百万円など、期初計画を下回る見込みです。
・当初想定していた以上に景気の回復が遅れており、売上高は期初計画を下回る見込みとなっています。



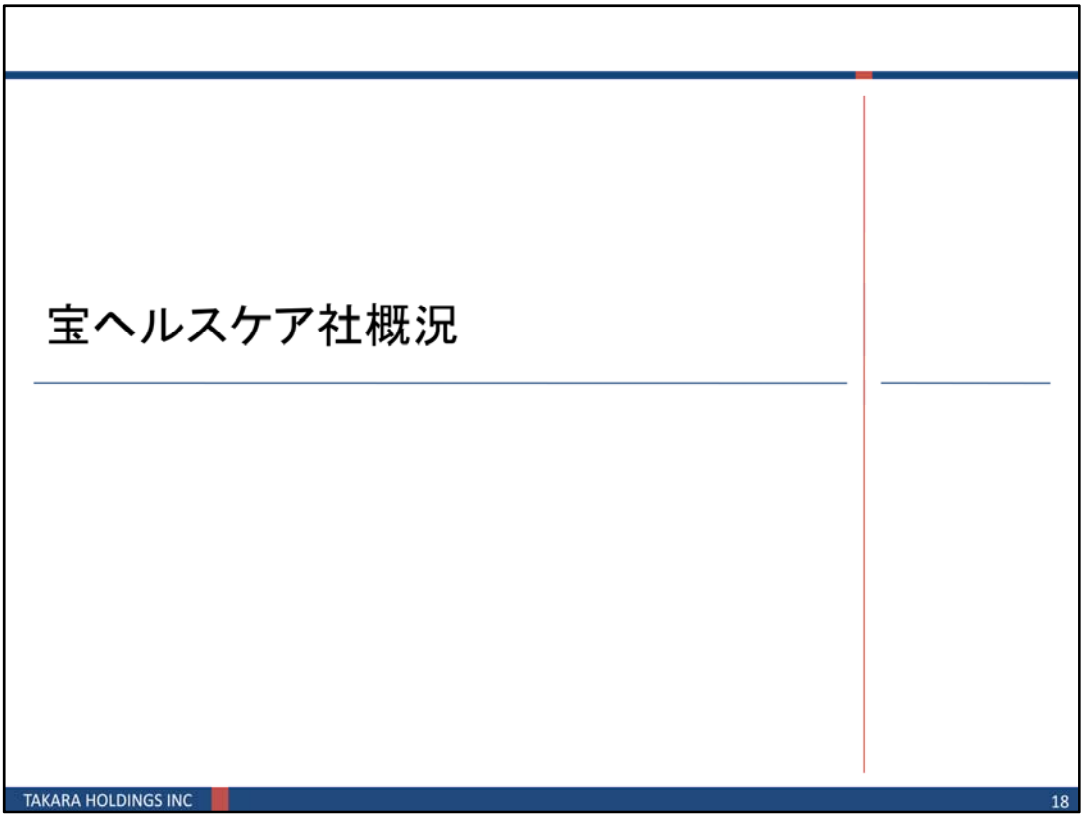
・営業利益の増減分析です。

・前期比では、コストアップが873百万円、コストダウンが1,044百万円となる見込みであり、差し引きコストダウンは171百万円を見込んでいますが、販売促進費の増加などにより販管費が増加し、宝酒造単体の営業利益は前期並みとなる見込みです。

・一方、フーデックス社の株式取得による影響額は、のれんの償却を含めて221百万円のプラスとなる見込みであり、全体では170百万円増益の7,300百万円を見込んでいます。

・期初計画比では、コストアップ・コストダウンともに利益に対してプラスに働く見込みですが、売上減少等による総利益の減少を1,015百万円見込んでおり、宝酒造単体の営業利益は期初計画を111百万円下回る見込みです。

・宝酒造グループ連結では、フーデックス社やその他子会社の営業利益増加を見込み、期初計画通りの営業利益となる見込みです。



・宝ヘルスケア社の概況です。

宝ヘルスケア社_1Q-2Q事業概況と今後の方向性

●P/L概要

（単位：百万円）	11/03期 2Q累計実績	前期比 増減	前期比 率(%)	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)	11/03期 通期計画	前期比 増減	前期比 率(%)	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)
ヘルスケア事業	530	146	38.0	33	6.7	1,050	282	36.7	―	-
その他	985	△ 174	△ 15.1	△ 17	△ 1.7	1,500	△ 218	△ 12.7	―	-
売上高	1,516	△ 28	△ 1.9	16	1.1	2,550	63	2.6	―	-
営業利益	△ 115	50	-	29	-	△ 300	16	-	―	-

【通販ルート売上高推移】 （単位：百万円）

●2011年3月期の活動方針

＜フコイダン＞
- ◆ 広告出稿1回当たりの顧客獲得効率の向上
- ◆ リピート顧客の定着、上位品への移行による顧客一人当たり購入金額の向上

＜明日葉・寒天＞
- ◆ 広告出稿による成長スピード向上

通販ルート売上高の拡大

2Q累計実績	前期比+20.0%
通期計画	前期比+27.1%

TAKARA HOLDINGS INC 19

・宝ヘルスケア社の第2四半期累計期間の損益は、売上高が1,516百万円、営業損失が115百万円となりました。
・通期では、売上高が2,550百万円、営業損失が300百万円を見込んでいます。

・宝ヘルスケア社では、フコイダンや明日葉、寒天などの機能性素材を使用した健康食品の通信販売に注力しており、通販ルートの売上高は第2四半期累計期間で前期比20.0%の増加となりました。
・通期では、前期比27.1%の増加を見込んでいます。

4. 宝ホールディングス連結

2011年3月期 通期業績予想

TAKARA HOLDINGS INC 20

・宝ホールディングス連結の2011年3月期の通期業績予想を確認します。

宝HLD連結_2011年3月期 通期 修正計画

（単位：百万円）	11/03期 修正計画	前期比 増減	前期比 率(%)	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)
宝酒造G	169,300	2,330	1.4	△ 2,000	△ 1.2
タカラバイオG	18,900	△ 425	△ 2.2	△ 450	△ 2.3
宝ヘルスケア	2,550	63	2.6	―	-
その他	1,649	△ 93	△ 5.4	△ 149	△ 8.3
売上高	192,400	1,874	1.0	△ 2,600	△ 1.3
売上原価	116,800	994	0.9	△ 1,600	△ 1.4
売上総利益	75,600	880	1.2	△ 1,000	△ 1.3
販管費	66,800	653	1.0	△ 1,000	△ 1.5
宝酒造G	7,300	170	2.4	―	-
タカラバイオG	800	246	44.6	0	0.0
宝ヘルスケア	△ 300	16	-	―	-
その他	999	△ 206	△ 17.1	△ 0	△ 0.0
営業利益	8,800	227	2.7	―	-
営業外収益	900	△ 23	△ 2.6	―	-
営業外費用	800	30	4.0	―	-
経常利益	8,900	172	2.0	―	-
特別利益	600	462	337.8	100	20.0
特別損失	700	44	6.8	100	16.7
税引前当期純利益	8,800	591	7.2	―	-
法人税等	3,900	582	17.6	―	-
少株前当期純利益	4,900	8	0.2	―	-
少数株主利益	200	△ 14	△ 6.6	―	-
当期純利益	4,700	22	0.5	―	-

TAKARA HOLDINGS INC 21

・売上高は、宝酒造グループで2,000百万円、タカラバイオグループで450百万円、全体では2,600百万円、期初計画を下回る見込みですが、前期比では、宝酒造グループで2,330百万円の増収を見込んでおり、全体では1,874百万円の増収となる見込みです。

・また、営業利益は、期初計画通り、前期比227百万円増益の8,800百万円を見込んでいます。

・最後に、TaKaRaグループの事業に関する、私の考え方を説明します。

・TaKaRaグループの強みは、国内酒類事業や遺伝子工学研究分野というしっかりとした収益基盤をもち、その一方で、加工業務用調味料事業や、海外の酒類事業、遺伝子医療分野、また、健康食品事業という有望な将来性のある成長事業をもつ、事業ポートフォリオにあると考えていますので、今後も、この強みを活かして、独自の戦略で中長期的な成長を果たしていきたいと考えています。

・バイオ事業に関しては、研究用試薬を中心とする遺伝子工学研究分野がしっかりとした収益基盤となり、今後の飛躍を担う遺伝子医療分野を支えています。そして、その遺伝子医療分野においても、臨床開発が着実に進展し、商業化が見え始めてきました。

・酒類事業に関しては、今後、海外展開が一層重要になってくると考えています。そのような中、フーデックス社の株式を取得し、日本食材の輸入卸事業に参入を果たしました。今後も、積極的に、今まで以上のスピード感をもって海外事業の成長を目指していきたいと考えています。

・一方、TaKaRaグループにとって、国内の酒類事業が大事な収益基盤であることに変わりはありません。
・国内酒類事業を取り巻く環境は、少子高齢化・人口減少に加え、昨今の景気低迷の影響などもあり、非常に厳しい競争環境にあると考えています。しかし、そのような中で、複数の優良ブランドを持つことに加え、コスト削減や効率化を継続することで、一層の収益力強化が可能であると考えています。

・国内酒類事業や遺伝子工学研究分野という強固な収益基盤、そして、発酵やバイオの高い技術力など、グループの事業成長を支える強みをベースに、成長事業への投資を加速し、今後も、TaKaRaグループの企業価値向上に努めていきたいと考えています。

・以上で、私からの説明を終了します。ご静聴ありがとうございました。

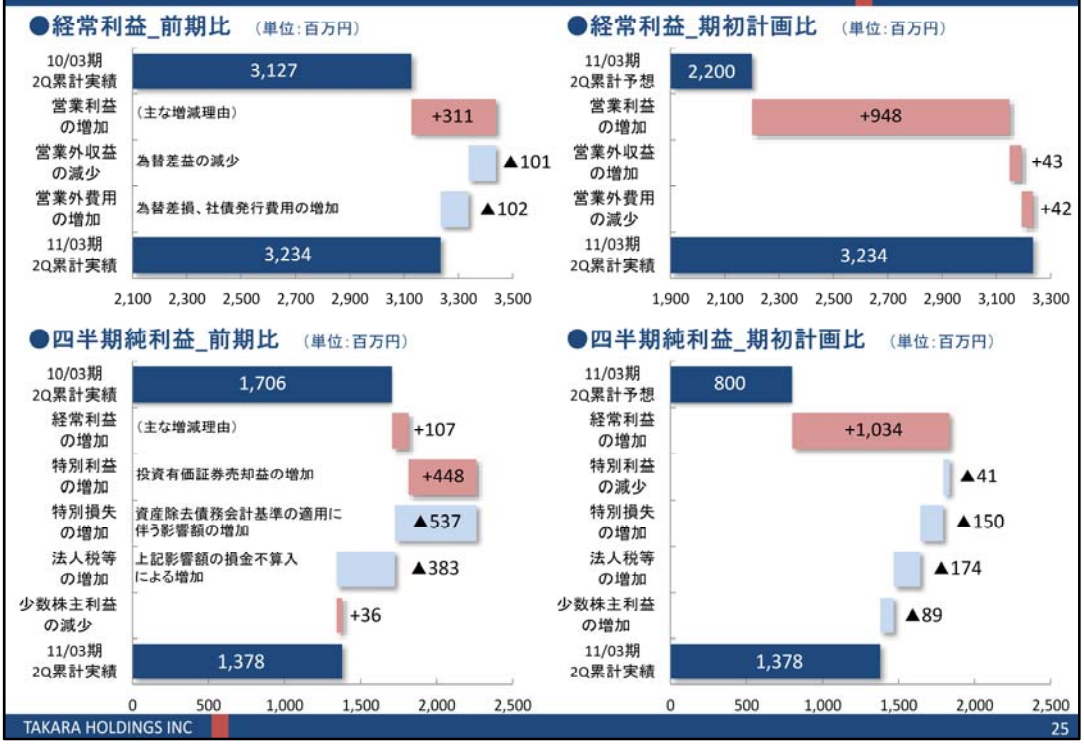
資料中の当社および当社グループの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

＜お問合せ＞
宝ホールディングス株式会社　IR室
Tel. 075-241-5124
E-Mail　ir@takara.co.jp

＜参考資料＞

宝HLD連結_経常利益・四半期純利益増減分析（2011年3月期 第2Q累計）



宝HLD連結_営業外・特別損益（2011年3月期 第2Q累計）

●営業外損益

（単位：百万円）	10/03期 2Q累計実績	11/03期 2Q累計実績	増減
営業外収益	545	**443**	△ 101
受取利息	71	**63**	△ 7
受取配当金	192	**205**	13
持分法投資利益	61	**29**	△ 31
為替差益	94	**—**	△ 94
その他	125	**144**	18
営業外費用	355	**457**	102
支払利息	125	**118**	△ 7
社債利息	161	**179**	17
棚卸資産廃棄損	12	**5**	△ 7
持分法投資損失	—	**76**	76
為替差損	—	**5**	5
その他	55	**73**	17
営業外損益収支	189	**△ 13**	△ 203

●特別損益

（単位：百万円）	10/03期 2Q累計実績	11/03期 2Q累計実績	増減
特別利益	10	**458**	448
固定資産売却益	7	**13**	5
投資有価証券売却益	—	**413**	413
その他	2	**31**	29
特別損失	113	**650**	537
投資有価証券評価損	22	**1**	△ 20
固定資産除売却損	69	**103**	34
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	**424**	424
減損損失	4	**—**	△ 4
係争和解費用	—	**108**	108
その他	16	**11**	△ 4
特別損益収支	△ 103	**△ 192**	△ 88

宝HLD連結_B/S概要：資産（2011年3月期 第2Q末）

（単位：億円）	10/03 実績	10/09 実績	増減
流動資産	1,207	1,209	2
現金及び預金	315	258	△ 56
受取手形及び売掛金	457	464	6
有価証券	142	197	54
たな卸資産	242	239	△ 3
その他	49	50	0
固定資産	747	728	△ 18
有形固定資産	429	423	△ 6
無形固定資産	39	61	21
投資その他資産	278	244	△ 34
投資有価証券	210	176	△ 33
その他	67	67	△ 0
資産合計	1,954	1,938	△ 16

●主な増減理由 （単位：億円）

- 現金及び預金 △56 → TH Δ34.5、TS Δ26.1、TB +9.2
- 受取手形及び売掛金 6 → TS +17.9、TB Δ11.3
- 有価証券 54 → TH +80.0、TS Δ20.1、TB Δ5.3
- たな卸資産 △3 → TS Δ1.7、TB Δ1.3
- 有形固定資産 △6 → 当期の有形・無形固定資産の増減内訳
  - 新規取得 +15.1（TS +10.6、TB +4.0）
  - 減価償却 Δ22.0（TS Δ15.6、TB Δ5.6）
  - その他増減 +22.4
- 無形固定資産 21 → 当期の有形・無形固定資産の増減内訳
- 投資有価証券 △33 → TH Δ35.0（時価評価差額 Δ30.5 他）

（TH：宝HLD、TS：宝酒造グループ、TB：タカラバイオグループ）

宝HLD連結_B/S概要：負債・純資産（2011年3月期 第2Q末）

（単位：億円）	10/03 実績	10/09 実績	増減
流動負債	516	453	△ 63
支払手形及び買掛金	139	137	△ 2
借入金・社債	151	102	△ 49
その他	225	214	△ 11
固定負債	346	440	94
借入金・社債	155	255	100
その他	190	184	△ 5
負債合計	862	893	31
株主資本合計	955	939	△ 15
資本金・資本剰余金	164	164	△ 0
利益剰余金	837	833	△ 4
自己株式	△ 46	△ 58	△ 11
評価・換算差額等合計	11	△ 19	△ 30
少数株主持分	125	124	△ 0
純資産合計	1,092	1,044	△ 47

●主な増減理由 （単位：億円）

- 流動負債 借入金・社債：TS Δ50.0 （第5回普通社債 2010年7月償還）
- 固定負債：TS +100.0 （第10回・11回普通社債 2010年5月発行）
- 自己株式：自己株式取得 TH Δ11.7
  - 2010年5月-6月に市場買付にて取得（株主還元策）
  - ・取得株数 2,500,000株
  - ・取得金額 1,178,565,000円
- 評価・換算差額等合計：その他有価証券評価差額金 TH Δ18.3

（TH：宝HLD、TS：宝酒造グループ、TB：タカラバイオグループ）

為替前提（子会社P/L換算用レート）

1Q-2Q累計（単位：円）	10/03期 (09年1月-6月)	11/03期 (10年1月-6月)			
	実績	期初予想	実績	前期差	期初予想差
ドル	95.60	85.00	**91.36**	-4.24	+6.36
ポンド	142.81	145.00	**139.30**	-3.51	-5.70
ユーロ	127.44	125.00	**121.24**	-6.20	-3.76
元	13.99	12.50	**13.39**	-0.60	+0.89
100ウォン	7.10	7.00	**7.91**	+0.81	+0.91

通期（単位：円）	10/03期 (09年1月-12月)	11/03期 (10年1月-12月)			
	実績	期初予想	修正予想	前期差	期初予想差
ドル	93.65	85.00	**87.00**	-6.65	+2.00
ポンド	146.61	145.00	**135.00**	-11.61	-10.00
ユーロ	130.36	125.00	**115.00**	-15.36	-10.00
元	13.71	12.50	**12.90**	-0.81	+0.40
100ウォン	7.37	7.00	**7.50**	+0.13	+0.50